

第8回横浜トリエンナーレ 第1弾 参加アーティスト発表 日本で初めて紹介されるアーティストが多数出展

第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」〔会期：2024年3月15日（金）～6月9日（日）〕は、先行きの見えないこの時代を、野草のようにもろく無防備でありながら、同時にたくましく生きようとするひとりひとりの姿に目を向けます。世界中から集まる現代アーティストたちの作品を通してわたしたちの生き方をふり返し、その先にきっとある希望をみなさんとともに見出したいと考えます。

主な参加アーティストの中には、日本初出展のアーティストが多数います。北極圏に生活する遊牧民「サーミ族」の血をひき、資源不足や気候変動に直面する今の社会に対し、人と自然の新たな共生のあり方を示すヨアル・ナンゴ（Joar NANGO）、トランスジェンダーであり自らの性移行をアート・プロジェクトとして公開するなど、既成概念にとらわれない多様性のあり方を社会に問うピッパ・ガーナー（Pippa GARNER）。また、南アフリカの社会に潜む家父長制や植民地主義から生まれる不平等について日用品を使った立体作品で表現するルングイスワ・グンタ（Lungiswa GQUNTA）、集団による協働作業のプロジェクトを実践するためにウクライナのリヴィウで結成され、今回は戦時下の市民生活をリアルに伝える作品を発表するオープングループ（Open Group）などです。日本からは、都市の死角や隙間である路上や地下を舞台に、グラフィティやパフォーマンスなどストリートカルチャーの視点からプロジェクトを展開して注目を集める若手アーティストのSIDE COREが参加し、新作を発表します。

本展には、67組の多様な国籍のアーティストが参加し（2023年11月28日現在）、うち日本で初めて紹介されるのは30組です。詳細は「参加アーティスト一覧」をご参照ください。

これらアーティストの作品は、横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKOの会場で展示されるとともに、一部は、3会場の建物の外側、街の中、横浜美術館の無料エリアでも楽しむことができます。

主な参加アーティスト

※作品はいずれも参考画像です



ヨアル・ナンゴ
Joar NANGO



《GIRJEGUMPI: The Sámi Architecture Library in Jokkmokk》2018
Photo: Astrid Fadnes

1979年、アルタ（ノルウェー）生まれ、ロムサ／トロムソを拠点に活動。北欧とロシア北部を移動するトナカイ遊牧民「サーミ族」の血筋をひく。地域内の資源循環に関心をもち、現地の素材をとり入れた仮設の構築物をつくる。それは資源不足や気候変動に直面する今の社会に対し、先住民の知恵になった人と自然の共生のあり方を示す実践である。本展では横浜美術館のファサードに展示予定の「サーミ族」のこたばを用いた作品にも要注目。

第8回 横浜トリエンナーレ 野々草: いま、こゝで生きてる

プレスリリース
2023年11月28日

ピッパ・ガーナー Pippa GARNER



《Human Prototype》2020
Courtesy of the artist and STARS,
Los Angeles, Photo: Bennet Perez



イリノイ州エヴァンストン（米国）生まれ、カリフォルニアを拠点に活動。ジェンダーを超えた作品で知られ、広告がつくり出す男女のイメージや消費社会に「生きづらさ」を感じてきた自らの経験をもとに作品を発表。1980年代にはアート・プロジェクトとして自ら異なる性に移行。性別、肌の色、年齢や既成概念にとらわれない多様性のあり方を社会に問う。

ルンギスワ・グンタ Lungiswa GQUNTA



Photo : Min Young Lim

1990年、ポートエリザベス（南アフリカ）生まれ、ケープタウンを拠点に活動。南アフリカにおける家父長制や植民地主義から生まれた不平等がひそむ「風景」を立ち上がらせる作品で知られる。有刺鉄線を編んだインスタレーションに布や身近な音などの柔らかい素材を組み合わせ、冷たさと暖かさの対比、異なる意味の重なりを生み出す。本展では横浜美術館内の無料エリアで有刺鉄線を使ったダイナミックな新作を展示予定。



《Ntabamanzi》2022
Courtesy of the artist
and Henry Moore
Foundation, Photo:
Rob Harris

オープングループ Open Group (Yuriy BILEY, Pavlo KOVACH, Anton VARGA)



2012年、ウクライナのリヴィウで結成されたコレクティブ。中心メンバーはユリー・ビーリー、パヴロ・コヴァチ、アントン・ヴァルガ。対話や討論、コミュニティへの参加や協働などの実践を通して作品を制作する。ロシアのウクライナ侵攻によってリヴィウの難民キャンプに逃れた市民取材し、戦争や紛争の現状をリアルに伝える作品を日本で初公開する。



《Repeat After Me》2022 (video still), Courtesy of the artists

SIDE CORE



Photo: Shin Hamada

2012年より活動を開始、東京都を拠点に活動。メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。

個人がいかに都市や公共空間のなかでメッセージを発するかという問いのもと、ストリートカルチャーの思想や歴史などを参照し制作する。ときに他ジャンルの表現者を交えたプロジェクトとして、都市の死角や隙間となる場所で多彩な作品を展開。本展では横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO の3会場で新作を発表する。



SIDE CORE/EVERYDAY HOLIDAY SQUAD

《rode work ver. under city》2023, Courtesy of CCBT

※作品はいずれも参考画像です

参加アーティスト一覧（2023年11月28日現在） ※姓のアルファベット順に記載

	アーティスト名（日）	アーティスト名（英）	生没年 グループは結成年	出生国(地域)	日本初 出展	新作
1	セレン・オーゴード	Søren AAGAARD	1980	デンマーク	●	●
2	ディルク・ブレックマン	Dirk BRAECKMAN	1958	ベルギー		●
3	エリーズ・キャロン&ファニー・ドゥヴォー	Élise CARRON & Fanny DEVAUX	2021	フランス	●	
4	レインボー・チャン／陳雋然	Rainbow CHAN	1990	中国（香港）		●
5	スーザン・チャンチオロ	Susan CIANCIOLO	1969	米国		●
6	ラリー・クラーク	Larry CLARK	1943	米国		
7	ノーム・クレイセン	Norm CLASEN	1939	米国	●	
8	クレモン・コジトール	Clément COGITORE	1983	フランス		
9	ラファエラ・クリスピーノ	Raffaella CRISPINO	1979	イタリア		
10	カルロマー・アークエンジェル・ダオアナ	Carlomar Arcangel DAOANA	1979	フィリピン	●	
11	ジェレミー・デラー	Jeremy DELLER	1966	英国		
12	ドバイ・ペーテル	DOBAI Péter	1944	ハンガリー		
13	土肥美穂	DOHI Miho	1974	日本		●
14	ピッパ・ガーナー	Pippa GARNER	-	米国	●	
15	ルンギスワ・グンタ	Lungiswa GQUNTA	1990	南アフリカ	●	●
16	マイルズ・グリーンバーク	Miles GREENBERG	1997	カナダ		
17	アネタ・グシェコフスカ	Aneta GRZESZYKOWSKA	1974	ポーランド	●	
18	イエンス・ハーニング	Jens HAANING	1965	デンマーク		
19	アルタン・ハイルラウ	Artan HAJRULLAHU	1979	コソボ	●	
20	浜口タカシ	HAMAGUCHI Takashi	1931-2018	日本		
21	ルイス・ハモンド	Lewis HAMMOND	1987	英国	●	●
22	マシュー・ハリス	Matthew HARRIS	1991	オーストラリア	●	
23	長谷川潔	HASEGAWA Kiyoshi	1891-1980	日本		
24	サウス・ホー／何兆南	South HO	1984	中国（香港）		
25	ジョナサン・ホロヴィッツ	Jonathan HOROWITZ	1966	米国	●	
26	ホアン・ボージィ／黄博志	HUANG Po-Chih	1980	台湾		
27	スターニャ・カーン	Stanya KAHN	1968	米国	●	
28	オズギュル・カー	Özgür KAR	1992	トルコ	●	
29	ダムラ・クルッチクラン	Damla KILICKIRAN	1991	スウェーデン	●	
30	北島敬三	KITAJIMA Keizo	1954	日本		●
31	ジョシュ・クライン	Josh KLINE	1979	米国	●	
32	ケーテ・コルヴィッツ	Käthe KOLLWITZ	1867-1945	ドイツ		
33	厨川白村	KURIYAGAWA Hakuson	1880-1923	日本		
34	クララ・リデン	Klara LIDEN	1979	スウェーデン		
35	魯迅	LU Xun	1881-1936	中国		
36	トレイボーラン・リンド・マウロン	Treiborlang LYNGDOH MAWLONG	1987	インド	●	
37	ステファン・マンデルbaum	Stéphane MANDELBAUM	1961-1986	ベルギー	●	

参加アーティスト一覧（2023年11月28日現在） ※姓のアルファベット順に記載

	アーティスト名（日）	アーティスト名（英）	生没年 グループは結成年	出生国(地域)	日本初 出展	新作
38	森村泰昌	MORIMURA Yasumasa	1951	日本		●
39	サンドラ・ムジンガ	Sandra MUJINGA	1989	コンゴ民主共和国	●	●
40	ヨアル・ナンゴ	Joar NANGO	1979	ノルウェー	●	●
41	エリック・ニードリング	Erik NIEDLING	1973	ドイツ	●	●
42	インゴ・ニアマン	Ingo NIERMANN	-	ドイツ	●	●
43	丹羽良徳	NIWA Yoshinori	1982	日本		
44	小野忠重	ONO Tadashige	1909–1990	日本		
45	オープングループ（ユリー・ビーリー、パヴロ・コヴァチ、アントン・ヴァルガ）	Open Group (Yuriy BILEY, Pavlo KOVACH, Anton VARGA)	2012	ウクライナ	●	
46	尾竹永子	OTAKE Eiko	1952	日本		
47	ポープ・L	Pope.L	1955	米国		
48	ブリックリー・ペーパー（チェン・イーフェイ & オウ・フェイホン）／刺紙（陳逸飛 & 歐飛鴻）	Prickly Paper (CHEN Yifei & OU Feihong)	2019	中国		●
49	トマス・ラファ	Tomas RAFA	1979	スロバキア	●	
50	シビル・ルパート	Sibylle RUPPERT	1942–2011	ドイツ		
51	マーガレット・サーモン	Margaret SALMON	1975	米国	●	●
52	アラン・セクーラ	Allan SEKULA	1951–2013	米国		
53	志賀理江子	SHIGA Lieko	1980	日本		●
54	SIDE CORE	SIDE CORE	2012	日本		●
55	リタ・ジークフリート	Rita SIEGFRIED	1964	スイス	●	
56	フンクワン・タム／譚煥坤	Vunkwan TAM	1997	-		●
57	谷中安規	TANINAKA Yasunori	1897–1946	日本		
58	サローテ・タワレ	Salote TAWALE	1976	フィジー	●	●
59	勅使河原蒼風	TESHIGAHARA Sofu	1900–1979	日本		
60	富山妙子	TOMIYAMA Taeko	1921–2021	日本		
61	佃弘樹	TSUKUDA Hiroki	1978	日本		●
62	エマニュエル・ファン・デル・オウウェラ	Emmanuel VAN DER AUWERA	1982	ベルギー	●	
63	ミルテ・ファン・デル・マーク	Myrthe VAN DER MARK	1989	オランダ	●	
64	プック・フェルカーダ	Puck VERKADE	1987	オランダ	●	●
65	エクスパー・エクサー	Xper.Xr	-	中国（香港）	●	
66	ジャオ・ウェンリアン／趙文量	ZHAO Wenliang	1937-2019	中国		
67	ジョン・イエファー／鄭野夫	ZHENG Yefu	1909–1973	中国		

参加アーティスト 67組：うち日本初出展 30組、新作出展 21組
(2023年11月28日現在)

第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」

新型コロナウイルス感染症のパンデミックや、気候変動と環境破壊、各地で繰り返される紛争や戦争など、わたしたちは今、地球全体で取り組むべき大きな危機に直面しています。こうしたさまざまな課題は、国という枠組みや資本主義といった社会システムの限界も明らかにしています。

先行きの見えづらいこの時代に開かれる第8回横浜トリエンナーレでは、文学や美術による社会の変革を目指した中国の小説家、魯迅（ろじん、1881～1936年）を出発点とします。今から100年前に魯迅が中国の激動期に書いた散文詩集『野草』には、時代の波に翻弄されながらも、ひとりひとりの生命を慈しみ、たくましく生きようとする精神があらわれています。魯迅のそうした哲学は、今もお文化をとおして時や国境をこえ生き続けています。

この展覧会では魯迅が生きた時代から今日までの約100年間を射程とし、その間におきた歴史の転換点や重大な事件を、世界各地のアーティストの作品をとおしてふり返ります。そこには多様な個性をもつわたしたちが、いかに手を取り合い、自然と共生し、これから生きるべきかという問いへのヒントも込められていることでしょう。個々人の命ははかなくとも、それらがつながることで困難を乗り越える力になると信じて、本展はひとりひとりが未来を生き抜くための希望を見いだす場を目指します。



【開催概要】

展覧会名：第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」

アーティストック・ディレクター：リウ・ディン（劉鼎）、キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）

会期：2024年3月15日（金）～6月9日（日）

〔開場時間：10:00～18:00 | 休場日：毎週木曜日（4/4、5/2、6/6を除く） | 開場日数：78日間〕

会場：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAICO

主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

公式WEBサイト：<https://www.yokohamatriennale.jp>

【プレスリリースお問い合わせ】

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当（石川、里見、頼政）

E-MAIL：press@yokohamatriennale.jp TEL 045-663-7232（平日10:00～18:00）

広報用画像貸出等プレス向けサイト：<https://www.yokohamatriennale.jp/press/>